

この時勢をどう認識し行動するか？——純粹悪という想定から見えてくる真理

Greatchain

2018/1/24

悪というものを徹底的に追及し、純化すれば、悪のための悪、“純粹否定”と言うべきものが見えてくる。そしてそれは、悪魔（サタン）という靈的実在につながってくる。こういうことは数年前まで、必ずしも明らかでなかった。言えば失笑を買ったであろう。

今、否定しようもなく、世界にはびこっている悪は、人間的な動機をもつものではなさそうである。カネが目当てで悪行を重ねるといような、人間的な悪とは、少し違うように思える。ペドフィリアの蔓延という、異常な、人間の最大の犯罪を取ってみても、単に性的欲望を満たすためという説明では、納得できない。ニュースとなった具体的事例をいくつか考えてみる：——5歳の女兒が襲われた。すると直ちに父親が駆けつけ、その場で犯人を殺した、が正当防衛で無罪となった。また、あの6歳と3歳の女兒が、就寝中に襲われそうになったが、飼い犬が犯人の急所を噛み切った事件。これらは、親の目や耳の届く所で起こっている。普通こんなことは考えられない。また、どうしても欲望が抑えられず、犯行に走ってしまう男が、自分の生殖器に洗剤を流し込んで、欲望を抑えようとした事件。これも普通は考えられない。

また、聖職者ペドファイルの何人かが、共通して言っている、「子供の方から誘ってきた」という奇怪な弁解も、不可解である。憑依という言葉は使えるかどうかわからないが、今、何によらず、サタンがこの世界を支配しているという認識は、現実的なものに思える。そもそも、世界の支配階級が、率先して、このペドフィリア（と子供売買）をやって見せるというようなことが、どうして起こったのか？ この集団的犯罪は単なる偶然だろうか？

これは、サタンが世界を支配している、あるいはサタンの世界支配が明らかになった、という言い方でしか説明できない。サタンとは「純粹悪」を体現する存在であって、人間的なカネとか権力といった動機はもたない。もっぱら**神の創った人間を滅ぼす**こと、神への復讐にしか興味はない。そういう存在が、いま世界と人間を支配している、あるいはその支配構造がいま明らかになった、と言うべきであろう。

サタン（悪魔）というものを、単に頭で考えた、非現実的な悪の象徴として考え、神と悪魔の戦いなどといえば、馬鹿々々しい空想物語としか考えないような人々には、この世界は見えてこない。したがって悪に対抗するどんな行動も取ることができない。メディアや学界は、いまだにそういう遅れた唯物論的立場を取っていて、この現実について、どんな説明もできず、何の積極的提案も出せないでいる。サタンは「もやのような、取り留めのない (diffuse) 存在でなく、人間の形をした実在だ」と、あのサタン信仰を自ら認めた法王フランシスが言っている。（メディアはこの事件さえ無視している。また、この法王の言動を、深刻な問題としての確に論じ、警告を発した唯一の世界の指導者は、プーチン大統領だが、これもメディアは無視している。）

サタンが神の創った人間を滅ぼすというとき、それはただ殺すという意味ではない。人間的な価値のすべてを滅ぼすということ——愛、信頼、思いやり、敬意、礼節、自尊心、向上心、家庭秩序といった美德のすべてを滅ぼすことである。

ペドフィリアは、これらの徳目を一つひとつ、神の目の前で破壊して見せる行為である。いわば神の強姦である。サタンに代って人間がそれを行っている。「どうだ神よ、これを見たか」という、陋劣きわまる神への復讐である。サタンの作戦は、これを政治や宗教界の指導者層に植え付け、次々に社会全体に及ぼすことであろう。我々の世界は、（ロシアや中国を除いて）このサタンに仕える者たちによって支配されている。

彼らが人間を殺す（人口を減らす）、あるいは知能や健康を劣化させるのは、New World Order アジェンダの予定の行動であって、ワクチン接種の全国運動を通じてそれを行ったとしても、驚くことではない。「彼らがそんなことをするはずがない、目的もわからず、意味もない」と、一般大衆が言っていることで、実際に行われていることは、いくらでもある。身近なのは、何十年も続いているケムトレール散布であり、昨年のハリケーン・シーズンの人工ハリケーンや、カリフォルニアの人為的環境破壊もそうである。これらは、地球そのものの気象や地形を変えてしまうことで、神の役目を奪い、神を無用の長物にしようとする意図が、中心にあるとしか考えられない。すべてをAI化して、人間を廃止しようとする彼らの明らかな意図も、同じである。これらは、理性的に、成算があってやっていることでなく、サタンという霊的次元での、信仰に基づく、自棄的な、**神に対する悪意の行動**としか思えない。彼らが、これに成功すると思っているとは、思えない。サタン信仰の宿命を彼らは知っている。（この点については、異論のある人があるだろう。）

彼らは、自分たちの行動が空しいことを、心の奥では自覚しているだろう。虚と実という言葉を使うなら、サタンの本質は「虚」であって、彼らの行動は、虚の上に立つ行動である。

彼らの生命線は、プロパガンダ（大衆を騙して成功を狙う作戦）であるが、このようなものを土台にして、究極の成功を掴むことができないことは、誰にでもわかる。誰でもよい、例えばヒラリー・クリントンのような人を、そのように見ると、「うつろな人々」（T・S・エリオットの詩）の、藁人形に見えるではないか？ 彼らは破壊して空威張りするだけで、実のあるものを何も生み出すことはできない。彼らの作戦である LGBT 推進も、ペドフィリアも、子供を産むことはできない。未来を生み出すことはできない。

驚くべきデータがある。前に、ビッグファーマに反対するホーリスティック医師が、次々に殺されているという話題を取り上げたが、その件数が 84 人目になったという。これも、見せしめという効果はあるかもしれないが、ほとんど無意味であろう。殺せば殺すほど、ビッグファーマの作った薬を使う西洋医学は、信用をなくし、代替医の確かな原理に基づく医療が、ますます信頼されるようになるだろう。前にも説明したように、Holism という言葉は、神聖、健康（健全）、癒し、有機的全体、という概念のすべてを含んでいる。それは、神、愛、調和、健全といった、本来の宇宙のあり方から、治療法を導き出すものである。したがってサタンの、敵対、破壊、恨み、復讐といった、マイナス哲学とは全く相容れない。その意味で、サタン側は正しく敵を認識している。しかし、その戦いにおいて、殺すという方法を取った時点で、完全に敗北であることを知らねばならない。我々、神側の正しい戦い方が、ここではっきり見えてくる。

—以上